

小学校での読み聞かせおすすめ絵本

文章と絵を書いた人は「作」、文章だけを書いた人は「文」としています。

時間欄の「—」は一冊に複数のお話の入っている本です。個々の時間はお話の紹介文の文末に記しています。

阿川弘之 文

書名	訳者	画家	出版社	時間
きかんしゃやえもん	—	岡部冬彦	岩波書店	11分



『きかんしゃやえもん』

いなかの町に、やえもんという名の小さな機関車がありました。長い間働いていたので、大変年をとってたびれていました。ある日、最新式の電気機関車に「石炭食って、おいしいか」と笑われ、腹を立てたやえもんは、「しゃくだ、しゃくだ...」と黒い煙と火の粉を吐き出しながら走ったので、稲村から煙がたちはじめました。

アーディゾーニ, エドワード 作

書名	訳者	画家	出版社	時間
チムとゆうかんなせんちょうさん	瀬田貞二	—	福音館書店	15分
チムとルーシーとかいぞく	なかがわちひろ	—	福音館書店	14分
チム、ジンジャーをたすける	なかがわちひろ	—	福音館書店	17分
チムのいぬタウザー	なかがわちひろ	—	福音館書店	16分
時計づくりのジョニー	あべきみこ	—	こぐま社	17分

『チムとゆうかんなせんちょうさん』

船乗りになりたいチムは、ある日、大きな船にこっそりと乗り込みますが、見つかってしまいます。乗せてもらうかわりに甲板掃除などつらい仕事をさせられますが、元気よく働くので船員たちにかわいがられるようになります。ところが嵐に遭い、チムの乗った船は難破してしまいました！



『チムとルーシーとかいぞく』

船乗りのチムは、友だちのルーシーや昔の仲間と一緒に楽しい船旅に出かけました。ある日、いかだで漂流していた人々を助けたのですが、それはかいぞくでした。

『チムのいぬタウザー』

船に紛れ込んだ犬を見つけたチム。でも船長は大の犬ざらいです。そこでチムは船長に嘘をつき続けました。「チム、あそこに犬がいるぞ。ほら、後ろの甲板だ。見えるかい?」「いいえ、見えません。」すると、それが原因で船長が病気になるってしまったのです。



『時計づくりのジョニー』

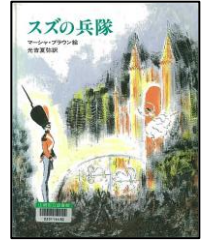
ジョニーは手先が器用で物を作るのが大好きな男の子でした。ある日、ジョニーは本物の大時計を作ろうと心に決めます。ところが両親や先生は「そんなこと、できっこない。」とまるで相手にしません。

アンデルセン 文

書名	訳者	画家	出版社	時間
スズの兵隊	光吉夏弥	マーシャ・ブラウン	岩波書店	15分

『スズの兵隊』

一本足のスズの兵隊は、同じ子ども部屋にいる紙細工の踊り子に恋をしていました。ある朝、風のせい、二人のことを快く思っていない子鬼の仕業か、スズの兵隊は3階の窓から外に落ちてしまいます。それを拾った子どもたちが、新聞紙の舟に乗せて溝に流してしまいました。やがて舟は沈み始め…。



イ・ヨンギョン 作

書名	訳者	画家	出版社	時間
あかてぬぐいのおくさんと7にんのなかま	神谷丹路	—	福音館書店	7分



『あかてぬぐいのおくさんと7にんのなかま』

針仕事が上手なおくさんの7つの道具が、けんかを始めました。“ものさしふじん”がおくさんの針仕事が上手なのは、寸法をきちんと測る自分のおかげだと言いました。すると“はさみおじょうさん”が口をとがらせて言い返し、それを聞いた“はりむすめ”も立ち上がり…。それぞれの道具の自慢がユーモラスに描かれています。

石井桃子 文

書名	訳者	画家	出版社	時間
くいしんぼうのはなこさん	—	中谷千代子	福音館書店	12分
ふしぎなたいこ	—	清水崑	岩波書店	—
いっすんぼうし	—	あきのふく	福音館書店	12分
やまのこどもたち	—	深沢紅子	岩波書店	—
やまのたけちゃん	—	深沢紅子	岩波書店	—

『くいしんぼうのはなこさん』

わがままでごちそうばかり食べていた子牛のはなこは、体も大きく力も強かったので、山の牧場の女王になりました。ある日の夕方、お百姓が持ってきたお芋とカボチャを独り占めにしたはなこは、翌朝お腹にガスがたまってアドバルーンのように膨らみ、今にも破裂しそうになってしまいます！



『ふしぎなたいこ』より「ふしぎなたいこ」

昔、げんごろうさんという人がたたくと鼻が高くなったり低くなったりする不思議な太鼓を持っていました。でも、その太鼓は人を喜ばせるためにしか使ってはなりません。ところがある日、げんごろうさんは人間の鼻がどれくらい伸びるものなのか、試してみたくなりました。(7分)

『ふしぎなたいこ』より「にげたにおうさん」

昔、とても力の強い“におう”という人がいました。におうは、日本中を相撲をとって回りましたが、誰一人かなうものはいませんでした。もう面白い相撲がとれないとがっかりしていると、隣の国に大変な力持ちがいると教えてくれる人がいました。そこでにおうは船に乗って力くらべに出発します。(10分)

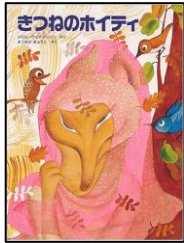
『山のたけちゃん』より「秋の章」

小学校へ通い始めたたけちゃんは、ある秋の日曜日、「小さい子と犬はだめ」と言われたのに、無理やり兄ちゃんたちの“おちばかき”について山へ行きました。(8分)



ウェッタシンハ、シビル 作

書名	訳者	画家	出版社	時間
きつねのホイティ	松岡享子	—	福音館書店	11分



『きつねのホイティ』

食いしん坊ぎつねのホイティは、干してあった洗濯物を着込んで、あわれな旅人になりすまし、村のアンゴウさんの家の夕食にありつきました。アンゴウさんは、きつねだと気付きつつも夕食をごちそうしてやります。ところがホイティは、うまくだましてやっとな大得意！歌まで歌ってうかれます。

【歌の入ったお話の読み方】

あまりにもメロディーをつけて歌いすぎると、かえってお話の流れを邪魔することがあります。「歌わなければ！」と身構えずに、“踊りながら” “子守歌” “歩きながら” など、その情景を意識して、自然に出てくるリズムで読むと、お話に溶け込んだ歌になります。

ウェーバー、バーナード 作

書名	訳者	画家	出版社	時間
ワニのライルがやってきた	小杉佐恵子	—	大日本図書	13分

『ワニのライルがやってきた』

東88番通りに越してきたプリムさん一家。引っ越しの最中、お風呂から水音が聞こえてきました。奥さんがドアを開けると...、そこにはワニのライルがいたのです！でも、ライルはとても気立てのよいワニで、すぐにプリムさん一家と仲良くなります。



『ワニのライルがやってきた』にはシリーズがあります。

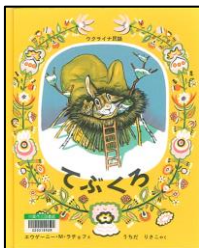
- ②『ワニのライル、動物園をにげだす』
- ③『ワニのライルとたんじょうパーティー』
- ④『ワニのライルとなぞの手紙』
- ⑤『ワニのライル、おかあさんを見つける』
- ⑥『ワニのライルとどろぼうじけん』
- ⑦『ワニのライルは会社のにんきもの』
- ⑧『ワニのライルのクリスマス』

内田莉紗子 文

書名	訳者	画家	出版社	時間
ゆきむすめ	—	佐藤忠良	福音館書店	5分
てぶくろ	—	エウゲーニー・E・ラチョフ	福音館書店	5分

『ゆきむすめ』

子どものいないおじいさんとおばあさんは、ある冬の日、雪で“ゆきむすめ”を作りました。すると、突然、ゆきむすめはにっこり笑って一足二足と歩き出したのです。



『てぶくろ』

冬の森で、おじいさんがてぶくろを落としました。それを見つけたねずみもぐりこみ、次にカエルがやってきて「ぼくも入れて」と言います。うさぎ、きつね、いのしし...、次々とやってくる動物で、てぶくろは今にもはちきれそうです！

エインズワース、ルース 文

書名	訳者	画家	出版社	時間
ちいさなるば	石井桃子	酒井信義	福音館書店	9分

『ちいさなるば』

いつもひとりぼっちの、ちいさなるばがいました。クリスマス・イブの夜、すずの音で目を覚ますと、サンタクロースが現れ、「トナカイの一角が足を痛めてそりが引けない。おまえ、助けてくれるわけにはいかんかね？」と言いました。



エッツ、マリー・ホール 作

書名	訳者	画家	出版社	時間
わたしとあそんで	与田準一	—	福音館書店	5分
もりのなか	まさきるりこ	—	福音館書店	7分
ちいさなふるいじどうしゃ	たなべいすず	—	富山房	10分



『わたしとあそんで』

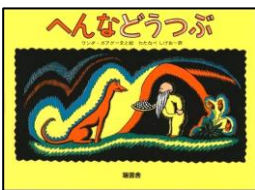
わたしが原っぱへ遊びに行くと、バッタがいたので遊ぼうと声をかけましたが、逃げてしまいました。カエルも、リスも、みんな話しかけると逃げてしまいます。ところが、私がじっと腰かけていると、みんな戻ってきてくれました。

ガグ、ワンダ 作

書名	訳者	画家	出版社	時間
100まんびきのねこ	石井桃子	—	福音館書店	12分
へんなどうつぶ	渡辺茂男	—	瑞雲舎	7分
すにつびいとすなつびい	渡辺茂男	—	岩波書店	15分

『100まんびきのねこ』

ねこをほしがるおばあさんのために、ねこを探しに出かけたおじいさんは、どこもここもねこでいっぱいになっている丘にやってきました。おじいさんには、どのねこもみんなとてもかわいく見え、選ぶことができません。とうとう、そこにいるねこをみんな連れて帰ることになってしまいました。



『へんなどうつぶ』

山奥に住むボボじいさんは、毎日山へやってくる動物たちのために、おいしいものを用意して待っています。ある日、「どうつぶ」と名乗る変わった動物がやってきました。どうつぶの好物が、良い子の人形だと知って悲しくなったボボじいさんは、人形の代わりに「じゃむ・じる」という食べ物を作ってどうつぶにすすめることにします。

加古里子 作

書名	訳者	画家	出版社	時間
だるまちゃん と てんぐちゃん	—	—	福音館書店	6分

ガントス、ジャック 文

書名	訳者	画家	出版社	時間
あくたれラルフ	石井桃子	ニコール・ルーベル	童話館出版	8分

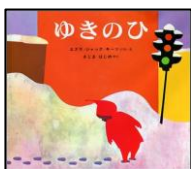
『あくたれラルフ』

あくたれねこのラルフは、セイラのねこでした。あくたれでも、セイラはラルフが好きでした。でも、ラルフはブランコの下がっている枝を切ったり、パーティーを台無しにしたり…。ついには、家族で見に行ったサーカスをめちゃくちゃにしてお父さんを本気で怒らせ、サーカスにおいていかれてしまいます。



キーツ、エズラ・ジャック 作

書名	訳者	画家	出版社	時間
ゆきのひ	木島始	—	偕成社	4分



『ゆきのひ』

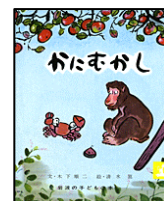
冬のある日、ピーターが目を覚ますと、辺り一面雪が積もっていました。赤いマントを着て外へ出たピーターは、つま先を外や内へ向けて足跡を付けたり、両足を引きずって歩いて2本の線をつけたりと、雪を存分に楽しめます。

木下順二 文

書名	訳者	画家	出版社	時間
かにむかし	—	清水崑	岩波書店	12分

『かにむかし』

昔々、カニが浜辺で拾った柿の種を植えて、立派な柿の実をならしました。ところが、それを横取りしたサルに、青い実を投げつけられて、カニは潰れてしまいます。親ガニから這い出した子ガニたちは、仇討ちに出発し、途中でクリやハチたちを仲間に入します。



* 終盤、クリが弾けてからサルがハチに刺される場面まで、文章と絵があっていないページがあります。

クーニー、バーバラ 作

書名	訳者	画家	出版社	時間
チャンティクリアときつね	平野敬一	—	ほるぷ出版	12分

クラジラフスキー(クラシロフスキー)、フィリス 文

書名	訳者	画家	出版社	時間
おさらをあらわなかったおじさん	光吉夏弥	バーバラ・クーニー	岩波書店	8分
うんがにおちたうし	南本 史(ちか)	ピーター・スパイアー	ポプラ社	9分



『おさらをあらわなかったおじさん』

小さな家に一人で暮らしているおじさんは、ある晩、うんとたくさん晩ご飯を作り、うんとたくさん食べたので、お腹がいっぱいになりくたびれてしまいました。そこで、お皿は明日の晩洗うことにしました。ところが次の日もお腹がいっぱいで、お皿は次の日に洗うことに。その次の日も、次の日も。とうとう家中、汚れたものでいっぱいになってしまいました！

『うんがにおちたうし』

牛のヘンドリカは毎日草をよく食べ、太ってとてもよいミルクを出します。ある日、うっかり運河に落ちたヘンドリカは、流れてきた木箱に乗り込み、憧れの街へゆっくりと流されていきます。



グリム 文

書名	訳者	画家	出版社	時間
おおかみと七ひきのこやぎ	瀬田貞二	フェリクス・ホフマン	福音館書店	9分
ねむりひめ	瀬田貞二	フェリクス・ホフマン	福音館書店	13分
ブレーメンのおんがくたい	瀬田貞二	ハンス・フィッシャー	福音館書店	12分
しあわせハンス	瀬田貞二	フェリクス・ホフマン	福音館書店	5分



『おおかみと七ひきのこやぎ』

昔、お母さんやぎは子やぎたちを呼び集めて言いました。「いいかい、わたしはこれからもりへ出かけるよ。では、くれぐれもおおかみに気をつけておくれ」お母さんが出かける間もなく、とんとんと戸を叩いて呼びかける声が聞こえてきました。「あけておくれ、こどもたち。おかあさんだよ。」けれども、それはおおかみのしわがれ声でした。

『ねむりひめ』

昔ある国に、お姫様が生まれました。長い間子どもを授からなかったので、王様はとても喜んで祝宴を開きました。ところが、客用の金の皿が12枚しかなかったので、13人の古い女のうち一人だけ招きませんでした。それを恨んだ女は、姫に恐ろしい呪いをかけたのです…。



『ブレーメンのおんがくたい』

年をとって仕事ができず、餌をもらえなくなったロバが、町の楽隊に雇ってもらおうとブレーメンを目指して旅に出ます。途中、同じようにお払い箱になった犬、猫、雄鶏と出会い、仲間に誘いました。夕方、森に入った一行は、明かりを目指して進むうち、一軒の小屋の前にたどり着きますが、それは何と、どろぼうたちの家でした！

『しあわせハンス』

奉公を終えて故郷に帰るハンスに、親方は大きな金のかたまりをくれました。しかし、ハンスはそれを馬、牝牛、豚と次々と別のものに交換してしまいます。



グレアム, マーガレット・ブロイ 作

書名	訳者	画家	出版社	時間
ベンジーのふねのたび	渡辺茂男	—	福音館書店	10分

『ベンジーのふねのたび』

家族の船旅においていかれた犬のベンジーは、港でうちの人に乗った船にそっくりの大きな船を見つけました。ベンジーは、うちの人に乗っていると思ってその船に潜り込み、船の倉庫で眠ってしまいます。そのうちに船は出港してしまいました。



小出正吾 文

書名	訳者	画家	出版社	時間
のろまなローラー	—	山本忠敬	福音館書店	6分

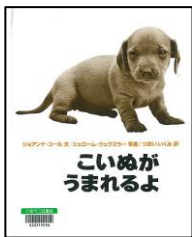
『のろまなローラー』

ローラーが道を平らにしながらくゆっくり走っていると、大きなトラックや立派な自動車たちが、「じゃまだよ、じゃまだよ。」と言いながら追い越していきました。ところが、しばらく行くとさっきの自動車たちが止まって休んでいます。でこぼこ道でパンクしてしまったのです。



コール, ジョアンナ 文

書名	訳者	画家	出版社	時間
こいぬがうまれるよ	坪井郁美	ジェローム・ウェクスラー写真	福音館書店	7分



『こいぬがうまれるよ』

生まれたての犬の赤ちゃんは、目も見えないし、耳も聞こえません。誕生の瞬間から、女の子にもらえるまでの2か月間の成長を、白黒の写真で紹介します。

佐野洋子 作

書名	訳者	画家	出版社	時間
だってだってのおばあさん	—	—	フレーベル館	8分

『だってだってのおばあさん』

「だってわたしはおばあさんだもの」が口癖のおばあさんと、元気なネコが暮らしていました。おばあさんの誕生日にネコが買ってきたろうそくは、たったの5本でした。でも、5本のろうそくを数えているうちに、なんだかおばあさんは5歳の気分になってきました。次の日、おばあさんはネコと一緒に川を飛び越え、魚をつ



ジオン, ジーン 文

書名	訳者	画家	出版社	時間
どろんこハリー	渡辺茂男	マーガレット・ブロイ・グレアム	福音館書店	5分
うみべのハリー	渡辺茂男	マーガレット・ブロイ・グレアム	福音館書店	8分
ハリーのセーター	渡辺茂男	マーガレット・ブロイ・グレアム	福音館書店	7分
はちうえはぼくにまかせて	もりひさし	マーガレット・ブロイ・グレアム	ペンギン社	8分
ほら なにもかも おちてくる	まさきりこ	マーガレット・ブロイ・グレアム	瑞雲舎	5分

*『あっ おちてくる ふってくる』 あすなろ書房でも可。



『どろんこハリー』

ハリーは黒いぶちのある白い犬です。ある日、お風呂に入るのがいやで逃げ出したハリーは、工事現場や石炭トラックで遊んで真っ黒になり、白いぶちのある黒い犬になってしまいました。そのため、家にも帰っても誰もハリーだとわかってくれません。

『ハリーのセーター』

ハリーは、誕生日におばあちゃんからバラの模様のセーターをもらいました。でもハリーは「好きじゃないな。」と思いました。バラの模様が気に入らなかったのです。そこで、お出かけの時に捨ててしまおうとします。



『はちうえはぼくにまかせて』

トミーは夏休みに、旅行する人たちの鉢植えを預かることにしました。上手に世話をするので、鉢植えはどんどん伸びて家中ジャングルのようなのです。お父さんはぶつさ文句を言いますが、トミーは森の中にいるかのような生活が楽しくて仕方ありません。

シュルヴィッツ, ユリー 作

書名	訳者	画家	出版社	時間
よあけ	瀬田貞二	—	福音館書店	4分

『よあけ』

山が黒々と鎮もり、動くものが何もない夜の湖。やがてそよ風が吹き、鳥が鳴きかわし始めました。湖畔で夜を明かした祖父と孫が目覚まし、ボートでこぎ出した、その時、山と湖は緑になりました。次第に闇が薄れ、輝くような朝を迎える夜明けの様子が、静かに神秘的に描かれています。



スタイグ, ウィリアム 作

書名	訳者	画家	出版社	時間
ロバのシルベスターとまほうの小石	瀬田貞二	—	評論社	15分
歯いしゃのチュー先生	うつみまお	—	評論社	11分



『ロバのシルベスターとまほうの小石』

ロバのシルベスターの楽しみは、変わった形や色の小石を集めることです。ある雨の日に、シルベスターは赤いビー玉のような小石を見つけました。何とそれは、何でも願いのかなう魔法の小石だったのです。喜んで家に帰ろうとしたシルベスターは、ライオンに出くわし、思わず「ぼくは岩になりました！」と願い、もどに戻れなくなってしまいました。

* 後半、魔法が解けるシーンで文と絵があっていない場面があります。岩のままの絵を見せながら、次のページの「～と思うがはやいかそうになりました。」まで読み、ページをめくった方がより楽しめるで

『歯いしゃのチュー先生』

チュー先生は腕利きの歯医者です。自分より大きな患者が来れば、はしごに登ったり、宙づりになったりして歯の治療をします。でも先生はネズミなので、危険な動物の治療はしません。ところがある日、キツネが痛む歯をおさえ、泣きながらやってきました。



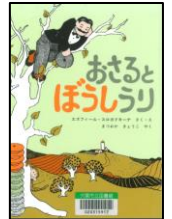
* 絵の中の看板の文字を必ず読むこと。(本文が始まってから5ページ目)本文の「かんぱんにもちゃんとかいてあります」の後か、そのページの最後に。

スロトキーナ, エズフィール 作

書名	訳者	画家	出版社	時間
おさるとぼうしうり	松岡享子	—	福音館書店	9分

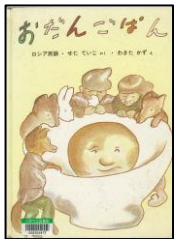
『おさるとぼうしうり』

あるところに、帽子を売り歩く行商人がいました。この人は、頭の上に、まず自分の帽子を被り、その上に色とりどりの帽子を重ねて売り歩いていました。ある日、この行商人は木の根元に座って一休みするうち、ぐっすり眠ってしまいました。目を覚ますと売り物の帽子がありません、見ると木の上でおさるたちが帽子をかぶっているではありませんか。



瀬田貞二 文

書名	訳者	画家	出版社	時間
おだんごぱん	—	脇田和	福音館書店	7分
かさじぞう	—	赤羽末吉	福音館書店	6分

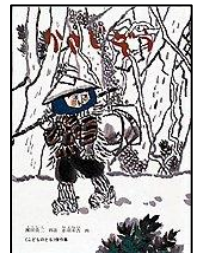


『おだんごぱん』

おばあさんが焼いたおだんごぱんは、転がって表へ出ていきました。そして、うさぎやおおかみ、くまに食べられそうになりますが、「ぼくはてんかのおだんごぱん」と、得意の歌を歌って逃げ出します。ところが、きつねは歌をほめ、「次は鼻の上で」「次はしたべろの上で」と何度も歌をせがみ…。

『かさじぞう』

あるところに、貧乏なじいさんとばあさんがおりました。ある年の大晦日、じいさんは「ことしこさ、いいとしをとるべな」と、こしらえた編笠を売りに町へ行きましたが、笠は全く売れません。帰り道、吹雪にさらされるお地蔵様たちを見たじいさんは、売り物の笠も自分のかぶっていた笠も、みんな地蔵様の頭に被せてあげました。



センダック, モーリス 作

書名	訳者	画家	出版社	時間
かいじゅうたちのいるところ	神宮輝夫	—	富山房	5分



『かいじゅうたちのいるところ』

おおかみのぬいぐるみを着て大暴れしたマックスは、お母さんに叱られて寝室に放り込まれます。すると寝室に木が生えだし、壁が消えて辺りはすっかり森や野原になりました。そしてマックスは波に運ばれてきた船に乗って、かいじゅうたちのいるところにやってきました！

* マックスたちが“かいじゅうおどり”をするところ(6ページ分)は、このお話のクライマックス。文字はありませんが、たっぷり時間を取ってページを繰るようにしましょう。

タイトス, イブ 文

書名	訳者	画家	出版社	時間
ねずみのとうさんアナートル	晴海耕平	ポール・ガルドン	童話館出版	15分

『ねずみのとうさんアナートル』

「ねずみはフランスの恥だ」と人間が話しているのを聞いたねずみのアナートルは、ひどいショックを受けます。そこでねずみの名誉回復のため、アナートルはチーズ工場に忍び込み、チーズの味見をしてカードに的確なアドバイスを残します。おかげで工場は大繁盛！



チュコフスキー, コルネイ 作

書名	訳者	画家	出版社	時間
わにがまちにやってきた	内田莉莎子	瀬川康男	岩波書店	6分

『わにがまちにやってきた』

言葉のリズムを楽しむ絵本。「たばこぶかぶか トルゴペらぺら ワーニ・ワニーイチ・ワニスキー」読む時は、この絵本の文章の韻を踏んだリズムを大切に。



デュボア, ペーン 作

書名	訳者	画家	出版社	時間
ものぐさトミー	松岡享子	—	岩波書店	12分



『ものぐさトミー』

トミー・ナマケンボは電気仕掛けの家に住んでいます。朝になると、トミーのベッドは自動的に傾き、トミーを電気水かきまわし機がついた風呂桶に落とします。電気歯みがきしぼり出し機に電気歯ブラシ、電気ブラシに電気食事機...。着替えるもの、髪をとかすのも、朝ごはんを食べるものぜんぶ電気仕掛けです。ところがある日、嵐がやってきて停電になってしまいました。

ドクター=スース 作

書名	訳者	画家	出版社	時間
ぞうのホートンたまごをかえす	白木茂	—	偕成社	16分
おひとよしのオオシカ	渡辺茂男	—	偕成社	11分

『ぞうのホートンたまごをかえす』

ぞうのホートンは、ある日、なまけ鳥のメイジーに自分の代わりに卵を温めてほしいと頼まれました。木に登ったホートンは、じーっと卵を温め続けます。嵐が来ても、冬になっても、友だちに笑われても、ホートンは卵を温め続けますが...



ドーハーティ, ジェームズ 作

書名	訳者	画家	出版社	時間
アンディとらいおん	村岡花子	—	福音館書店	10分



『アンディとらいおん』

ライオンが大好きな男の子アンディは、学校へ行く途中、足にトゲが刺さって困っているライオンに出くわします。トゲを抜いてやったアンディは、喜んだライオンに顔をペロペロなめてもらいました。それからしばらくして、サーカスが町にやってきました。

中川李枝子 文

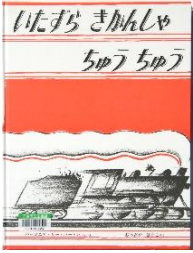
書名	訳者	画家	出版社	時間
ぐりとぐら	—	大村百合子	福音館書店	6分
ぐりとぐらのえんそく	—	山脇百合子	福音館書店	5分
ぐりとぐらのかいすいよく	—	山脇百合子	福音館書店	5分
ぐりとぐらのおきやくさま	—	山脇百合子	福音館書店	6分

バートン, バージニア・リー 作

書名	訳者	画家	出版社	時間
ちいさいおうち	石井桃子	—	岩波書店	14分
いたずらきかんしゃちゅうちゅう	村岡花子	—	福音館書店	12分
マイク・マリガンとスチーム・ショベル	石井桃子	—	童話館出版	14分
はたらきものじょせつしやけいてい	石井桃子	—	福音館書店	10分

『ちいさいおうち』

昔々、ずっと田舎の静かな所に、ちいさいおうちがありました。それはきれいで、しっかり丈夫に建てられていました。春になるとリンゴの花が一斉に咲きだします。夏になると周りにはヒナギクの花が咲き、夜には月や星が輝きました。美しい季節が何度も過ぎていきました。ところがある日、丘を切り崩して工事が始まり...



『いたずらきかんしゃちゅうちゅう』

小さな機関車のちゅうちゅうは「わたしは、もう、あのおもいきやくしゃなんか ひくのはごめんだ。わたしひとりなら、もっともつとはやくはしれるんだ。」と考え、ある日、機関士たちが目を離したすきに逃げ出してしまう。

『マイク・マリガンとスチーム・ショベル』

マイクはメアリ・アンという名前のきれいな赤いスチーム・ショベルを持っていて、とても大切にしていました。けれども、新式のショベルが発明され、マイクたちの仕事がなくなってきました。そんなある日、マイクとメアリ・アンはポツパビルという町で新しい市役所を建てることを知りました。マイクたちは、その市役所の地下室を掘りに行き、一日でその仕事をやってみせると約束します。



『はたらきもののじょせいしゃけいていー』

けいていーは赤い立派なトラクター。除雪機をつけると雪を掻きのけることもできます。ある日、ジェオポリスの町に大雪が降りました。道は通れなくなり、車は走れなくなり、誰もかれも、何もかもが雪に埋もれてじっとしていなければなりません。けれども、その時ただ一人...、けいていーは動いていました。

バリー, ロバート 作

書名	訳者	画家	出版社	時間
おおきいツリーちいさいツリー	光吉夏弥	—	大日本図書	15分



『おおきいツリーちいさいツリー』

もうすぐクリスマス。ウィロビーさんのお屋敷に大きなツリーが届きました。ところが、大広間に立ててみると、先が天井につかえてしまいます。そこで執事は先をちょん切り、小間使いのアデレードにあげました。ところが、アデレードも「少し大きすぎる。」と先をちょん切ってゴミ箱へ。それを拾ったのは、庭師のチム。チムの奥さんは「うちは小じんまりしているから、もう少し小さくてもいいわ。」と先を切って窓の外へ捨ててしまいます。それを通りかかったクマが...

*絵が小さいので、少人数での読み聞かせにおすすめです。

平野直 文

書名	訳者	画家	出版社	時間
やまなしもぎ	—	太田大八	福音館書店	8分

『やまなしもぎ』

あるところに、三人の兄弟がおりました。ある日、病気の母親に食べさせるために、やまなしをとりに行くことになりました。ところが、先に行った太郎も、次に行った二郎も、やまなしの木の下にある沼の主 に飲み込まれてしまいました。



ファン・イーチュン(方軼羣) 作

書名	訳者	画家	出版社	時間
しんせつなともだち	君島久子	村山知義	福音館書店	5分



『しんせつなともだち』

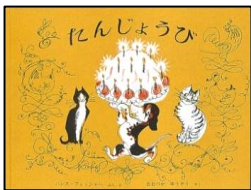
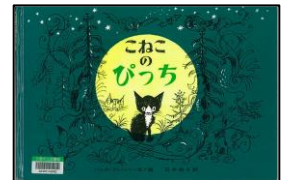
雪がたくさん降ったある日、カブを2つ拾った子うさぎは、「ロバさんも食べ物がないで困っているだろう。」とカブを一つロバの家において帰ります。それを見つけたロバは、ヤギさんも困っているだろうと、そのカブをヤギの家に届けに行きます。ヤギはシカさんも困っているだろうと...

フィッシャー, ハンス 作

書名	訳者	画家	出版社	時間
こねこのぴっち	石井桃子	—	岩波書店	14分
たんじょうび	大塚勇三	—	福音館書店	12分

『こねこのぴっち』

りげっとおばあさんの家で生まれた子ねこのぴっちは、他の兄弟のように毛糸遊びなんかしません。全然違うことがあったのです。外に出たぴっちは、雄鶏やヤギにあこがれたり、アヒルのまねをして池でおぼれたり！とうとうウサギ小屋で一夜を過ごすことになり、恐ろしい目に遭って病気になってしまいます。



『たんじょうび』

森のそばの一軒家に、リゼッテおばあちゃんと2匹のネコのマウリとルリ、イヌのベロがたくさん動物たちと一緒に暮らしていました。今日はおばあちゃんの76歳の誕生日です。おばあちゃんが買い物に出かけた留守に、動物たちはケーキを焼き、花を飾ってお祝いの準備をします。素晴らしいお祝いした後、おばあちゃんを一番喜ばせた贈り物は...

ブライト, ロバート 作

書名	訳者	画家	出版社	時間
おばけのジョージ	光吉夏弥	—	福音館書店	6分

『おばけのジョージ』

小さな家の屋根裏に住んでいる小さなおばけのジョージは、毎晩同じ時間に階段をミシリといわせ、ドアをギーッといわせました。この音を合図に、家の人やフクロウたちは規則正しい生活を送っていました。ところがある日、家の人やゆるんだ床板を直し、ドアに油をさしてしまったのです。



ブラウン, マーガレット・ワイズ 文

書名	訳者	画家	出版社	時間
ちいさなもみのき	上條由美子	バーバラ・クーニー	福音館書店	13分

『ちいさなもみのき』

森の外れの小さなもみの木は、ある冬の日、男の人に掘り起こされ家に運ばれました。足が悪くて歩けない息子のクリスマス・ツリーにするためでした。そして、春になると元の森に戻されました。次の年も、男の人は家に運び、春には森へ戻してくれました。しかし、その次の冬、いくら待っても男の人は来ませんでした...



ブラウン, マーシャ 作

書名	訳者	画家	出版社	時間
三びきのやぎのがらがらどん	瀬田貞二	—	福音館書店	6分
ちいさなヒッポ	内田莉莎子	—	偕成社	6分
せかいいちおいしいスープ	こみやゆう	—	岩波書店	14分

(『せかいいちおいしいスープ』 渡辺茂男訳 ペンギン社 でも可)



『三びきのやぎのがらがらどん』

名前は何れも“がらがらどん”という三匹のヤギが、山の草場で太ろうと順番に山へ登っていきますが、途中の谷川の橋の下に恐ろしいトルルがいて、三匹を食べようと待ち構えていました。ノルウェイの有名な昔話。

『ちいさなヒッポ』

小さなカバのヒッポは、昼間、日なたの水に浮かんで眠るときも、夕暮れに草地へ行って草を食べるときも、ずっとお母さんと一緒です。ある日、みんなが昼寝をしている間に一人で遊んでいたヒッポに、金緑の目のワニが近付いてきました…。



『せかいいち おいしいスープ』

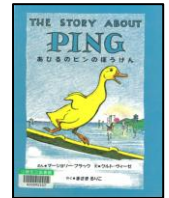
腹ペコの三人の兵隊が、ある村にたどり着き、食べ物をわけてほしいと頼みますが、村の人たちは食べ物を隠して、首を横に振るばかり。すると兵隊たちは、「石のスープを作ります。」と言い出しましたので、村人たちは興味津々です。

フラック, マージョリー 作(文)

書名	訳者	画家	出版社	時間
あひるのピンのぼうけん	まさきりこ	クルト・ヴィーゼ	瑞雲舎	15分
アンガスとあひる	瀬田貞二	—	福音館書店	5分
アンガスとねこ	瀬田貞二	—	福音館書店	4分
まいごのアンガス	瀬田貞二	—	福音館書店	4分
トプシーとアンガス	まさきりこ	—	アリス館	9分
ベスとアンガス	まさきりこ	—	アリス館	5分

『あひるのピンのぼうけん』

ピンはたくさんの家族と一緒に、揚子江に浮かぶ船で飼われています。朝、ピンたちは岸辺において過ごし、夕方になると一列に並んで橋を渡って船に帰ります。ある日、戻るのが遅くなったピンは、船に戻らないことになりました。家族と離れ、一人でえさを探すが、男の子に捕まってしまう。小さなピンが、多くの船の行き交う揚子江で、無事に家族のいる船に戻るまでの冒険が描かれます。



『アンガスとあひる』

ある家にアンガスという犬が住んでいました。アンガスはスコッチ・テリアで、体はとても小さいのに頭と足は大きく、見るもの嗅ぐもの何でも知りたがりでした。ある日、アンガスが「ガーガー」という声は何だろうと、生垣の向こうに行ってみると、2羽のアヒルがいました。

『まいごのアンガス』

外の世界に興味津々のアンガスは、ある日、表の門を忍び出て大通りへ出ていきました。犬を追いかけ、ヤギに驚き、自動車に吠え、ずいぶん遠くへ来てしまいました。そのうち夕闇が濃くなってきたので、アンガスはうちへ帰ろうと思って走り出しましたが…。



フリーマン, ドン 作

書名	訳者	画家	出版社	時間
ターちゃんとペリカン	西園寺祥子	—	ほるぷ出版	8分
くまのコールテンくん	松岡享子	—	偕成社	8分
くまのビーディーくん	松岡享子	—	偕成社	7分

『ターちゃんとペリカン』

夏休みに両親と海辺へやってきたターちゃんは、昨年会ったペリカンと再会します。ペリカンと並んで海辺の杭に座ったターちゃんは、初めての釣りを楽しみます。ところが潮が満ちてきて、砂浜に脱いでおいた新しい長靴が流されてしまいました。



『くまのコールテンくん』

コールテンくんは、デパートのおもちゃ売り場にいるクマのぬいぐるみです。ある日、買い物客にズボンのボタンが一つ取れていると言われたコールテンくんは、真夜中にボタンを探そうと棚から降り、床の上をあちこち調べ始めました。

『くまのビーディーくん』

ビーディーくんは、セイヤーくんという男の子が持っているゼンマイで動くクマのおもちゃです。ある日、ビーディーくんはセイヤーくんのいない間に、「クマ...、洞穴に住む勇敢な動物」と書かれた本を見て、自分も洞穴に住もうと、雪が積もった丘にある洞穴へ行くことにしました。



ブリュノフ, ジャン・ド 作

書名	訳者	画家	出版社	時間
ぞうのババール (①)	矢川澄子	—	評論社	11分
ババールのしんこんりょこう (②)	矢川澄子	—	評論社	16分
おうさまババール (③)	矢川澄子	—	評論社	20分
ババールのこどもたち (④)	矢川澄子	—	評論社	17分
ババールとサンタクロース (⑤)	矢川澄子	—	評論社	22分

『ぞうのババール』

大きな森の国で生まれたぞうのババールは、悪い狩人から逃れて町へたどり着きます。そこで出会ったぞうの気持ちなら何でもわかる大金持ちのおばあさんと一緒に暮らし始めたババール。デパートで買い物をしたり、ドライブをしたり、楽しく暮らしていました。そんなある日、いとこのアルチュールとセレストがやってきて、急に森に帰りたくなりました。



ババールのシリーズには続きがあります！

- ⑥『ババールといたずらアルチュール』
- ⑦『ババールとりのしまへ』
- ⑧『ババールのはくらんかい』
- ⑨『ババールとグリファトンきょうじゅ』
- ⑩『ババールのひっこし』

ブルック, レズリー 作

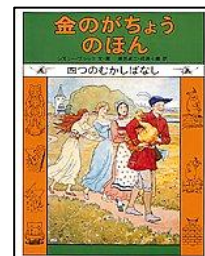
書名	訳者	画家	出版社	時間
金のがちょうのほん	瀬田貞二〔共〕	—	福音館書店	—

『金のがちょうのほん』より「金のがちょう」

末息子のぬけ作は、小人に教えられた木を切り、中にいた金のがちょうを手に入れました。その金のがちょうがほしいとがちょうに触った娘の手ががちょうにくっついて離れなくなりました。その娘に触った妹も、寺男も...。次々とくっついてしまい、奇妙な行列はぞろぞろと都へたどり着きます。(13分)

『金のがちょうのほん』より「三びきのこぶた」

昔、お母さんと3匹のこぶたがいましたが、お母さんは貧乏で3匹を育てきれなくなりました。そこでこぶたたちは自分で暮らすために、それぞれが家を建てます。最初のこぶたはわらで、次のこぶたは木の枝で、最後のこぶたはレンガで...。おなじみの昔話ですが、レンガの家の後の話を知らない子が意外に多いようです。(9分)

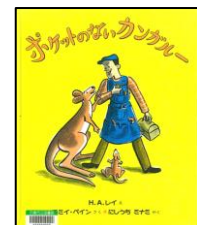


ペイン, エミイ 文

書名	訳者	画家	出版社	時間
ポケットのないカンガルー	西内ミナミ	H・A・レイ	偕成社	9分

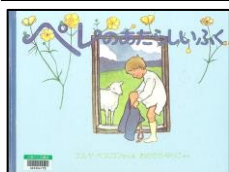
『ポケットのないカンガルー』

カンガルーのケイティにはポケットがないので、息子のフレディを運ぶことができません。ワニやサルをまねてもうまくいかず...。そこで、物知りのフクロウに聞いて町へ行くことにしました。町へ着くと、向こうからポケットをたくさんつけた男の人が歩いてくるではありませんか！



ベスコフ, エルサ 作

書名	訳者	画家	出版社	時間
ペレのあたらしいふく	小野寺百合子	—	福音館書店	5分

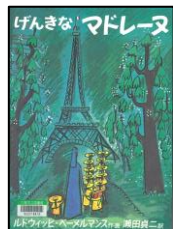


『ペレのあたらしいふく』

ペレは新しい服を作ろうと、自分の世話する子羊の毛を刈りました。それから、おばあちゃんに頼んで毛糸を漉いてもらい、次は毛糸を紡いでもらいにもう一人のおばあちゃんの所へ行きます。お返しに、ペレは行く先々で、草取りや牛の番など、色々な仕事を引き受けます。

ペーメルマンズ, ルドヴィッヒ 作

書名	訳者	画家	出版社	時間
げんきなマドレーヌ	瀬田貞二	—	福音館書店	6分
マドレーヌといぬ	瀬田貞二	—	福音館書店	6分
マドレーヌとジブシー	瀬田貞二	—	福音館書店	8分



『げんきなマドレーヌ』

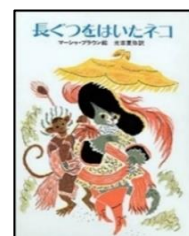
パリの古い屋敷に十二人の女の子と先生が暮らしていました。一番おちびさんがマドレーヌ。ある日の真夜中、マドレーヌは救急車で運ばれ、盲腸炎の手術をすることになりました。十日後、十一人の女の子たちがお見舞いに行くと、病室にはおもちゃにキャンディー、人形の家がありました。中でもみんながたまげたのは、マドレーヌのお腹にある手術の傷でした。

ペロー, シャルル 文

書名	訳者	画家	出版社	時間
長ぐつをはいたネコ	光吉夏弥	マーシャ・ブラウン	岩波書店	12分

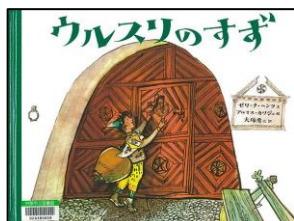
『長ぐつをはいたネコ』

粉屋の末息子は、父の遺産として1匹のネコしかもらえませんでした。けれども、そのネコは知恵を働かせて、王様と末息子を引き合わせます。その上、人食い鬼を退治して、立派な領地とお城まで手に入れてくれました。有名なフランスの昔話。



ヘンツ, ゼリーナ 文

書名	訳者	画家	出版社	時間
ウルスリのすず	大塚勇三	アロイス・カリジェ	岩波書店	10分
大雪	生野幸吉	アロイス・カリジェ	岩波書店	14分
フルリーナと山の鳥	大塚勇三	アロイス・カリジェ	岩波書店	13分

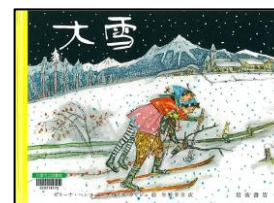


『ウルスリのすず』

高い山のふもとに住んでいるウルスリは、春迎いの鈴行列の祭りで持つ鈴を借りに行きました。ところが、他の子たちに大きな鈴を取られてしまい、残ったのは小さな鈴…。みんなに笑われ悲しむウルスリは、山の夏小屋に大きな鈴があることを思い出しました。雪をかき分け、山小屋へ向かいます。

『大雪』

アルプスの山奥に住むウルスリとフルリーナの兄妹。ある雪の日、翌日の子どものそり大会のために、ウルスリはいやがるフルリーナをふもとの村の糸屋の店へ、そりを飾る毛糸のふさ飾りを買に行かせます。フルリーナは泣きながら、ふもとの村へと出かけていきました。



『フルリーナと山の鳥』

山の夏小屋で過ごすフルリーナは、ある日、キツネに母をとられたひな鳥を助けます。フルリーナは、そのひな鳥の頭に赤いリボンをつけ、かわいがって育てますが、成長するにつれ、しきりに森や山を恋しがるようになりました。

星野道夫 作

書名	訳者	画家	出版社	時間
クマよ	—	—	福音館書店	4分



『クマよ』

アラスカの大自然を悠々と生きるクマたちの写真絵本。クマの驚くほど優しい眼差しや、親子で遊ぶ愛らしい姿の一方、決して人を近づけない野生の怖さ・不気味さも伝わってきます。秋のアラスカの素晴らしい紅葉と夕日は、子どもから大人まで見る人の心を捉えます。

ポター, ビアトリクス 作

書名	訳者	画家	出版社	時間
ピーターラビットのおはなし	石井桃子	—	福音館書店	9分
ベンジャミンバニーのおはなし	石井桃子	—	福音館書店	10分
フロプシーのこどもたち	石井桃子	—	福音館書店	11分



『ピーターラビットのおはなし』

いたずらっ子のピーターは、ある日、お母さんが出かけたすきに、お百姓のマクレガーさんの畑にもぐりこみました。レタスやさやいんげん、はつかだいこんを食べ、パセリを探していると、ぼったりマクレガーさんに出くわしました！

『ベンジャミンバニーのおはなし』

ピーターといとこのベンジャミンバニーは、マクレガーさんの畑に忍び込んで、ピーターの上着と靴を取り戻しました。ところが、帰り道に猫に出くわし、とっさに2匹はかごにもぐりこみます。すると猫は、そのかごの上にとっかりと座り込んで、5時間もそこを動きません！



『フロプシーのこどもたち』

ベンジャミンバニーは、大人になるといこのフロプシーと結婚し、子どもがたくさん生まれました。ある日、子どもたちがお百姓のマクレガーさんのゴミ捨て場に行くと、たくさんのレタスが捨ててありました。そのレタスをお腹いっぱい食べた子どもたちは、その場で眠りこけ、マクレガーさんに捕まってしまうます。

【ピーターラビットのおはなしシリーズ】

とても小さな絵本なので、少人数のクラス、またはギュッと小さくまとまって楽しんでください。文章でしっかりお話の面白さが伝わるので、ちょっと絵が見えにくくても大丈夫です。

『こねこのトムのおはなし』 『モペットちゃんのおはなし』 『こわいわるいうさぎのおはなし』
 『2ひきのわるいねずみのおはなし』 『のねずみチュウチュウおくさんのおはなし』
 『まねねずみジョニーのおはなし』 『りすのナトキンのおはなし』 『あひるのジマイマのおはなし』
 『「ジンジャーとピクルズや」のおはなし』 『キツネどんのおはなし』 『ひげのサムエルのおはなし』
 『グロースターの仕立て屋』 『ティギーおばさんのおはなし』 『ジェレミー・フィッシャーどんのおはなし』
 『カルアシ・チミーのおはなし』 『パイがふたつあったおはなし』 (石井桃子訳)
 『ずるいねこのおはなし』(まさきりこ訳)

ホーバン, ラッセル 文

書名	訳者	画家	出版社	時間
おやすみなさいフランス	松岡享子	ガース・ウィリアムズ	福音館書店	13分
ジャムつきパンとフランス	松岡享子	リリアン・ホーバン	好学社	16分



『おやすみなさいフランス』

ある晩、フランスは眠れませんでした。そこで自作の「あいうえおのうた」を歌いました。「あはアップルパイのあ、いはいたち...。」とどんどん進んで「とはとらだぞ」と歌った後、フランスは部屋にとらがいるような気がしました。お父さんたちのいる居間へ行きましたが、「気立てのいいとらだから、悪いことはしない。」とベッドに戻されました。今度は大男がいる気がしました。また居間に行きますが、「大男に何の用だか聞いてごらん」と言われました。大男と思ったのは、椅子にかかった自分のガウンでした。次は天井のひびを見つけ...。

『ジャムつきパンとフランス』

フランスの大好物はジャムつきパン。朝食の半熟卵も、夕食の子牛のカツレツも食べず、ジャムつきパンばかり食べています。お弁当のチキンサラダのサンドイッチも、友だちのジャムつきパンと交換してしまいました。そこでお母さんはフランスに、いつもジャムつきパンを作ることにしました。



ホフマン, フェリクス 作

書名	訳者	画家	出版社	時間
クリスマスのもものがたり	生野幸吉	—	福音館書店	8分



『クリスマスのもものがたり』

ある晴れた日に、天使ガブリエルがマリアに歩み寄り、こう言いました。「あなたは男の子を生むだろう。その子をイエスと名付けよ。」キリスト誕生の物語を美しい絵で描きます。

ホール, ドナルド 文

書名	訳者	画家	出版社	時間
にぐるまひいて	もきかずこ	バーバラ・クーニー	ほるぷ出版	5分

『にぐるまひいて』

10月、父さんは荷車に牛をつなぎ、この一年間に家中みんなで作り育てた物を積み込んで、町へ売りに出かけました。町の市場で荷車や牛まで売り、そのお金で家族のために針と鍋、ナイフ、キャンディーを買って徒歩で家に帰ります。



マチャーセン, エゴン 作

書名	訳者	画家	出版社	時間
あおい目のこねこ	瀬田貞二	—	福音館書店	10分

松居直 文

書名	訳者	画家	出版社	時間
だいくとおにろく	—	赤羽末吉	福音館書店	5分
ももたろう	—	赤羽末吉	福音館書店	12分
こぶじいさま	—	赤羽末吉	福音館書店	6分



『だいくとおにろく』

昔、流れがとても速い大きな川に橋架けを頼まれた大工は、川の鬼に目玉をよこせば橋を架けてやると言われます。完成した橋を前に目玉をせがまれ、困り果てた大工に、鬼は「おれの名前をあてれば、ゆるしてやってもええぞ」と怒鳴りました。

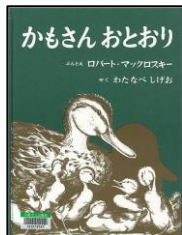
『こぶじいさま』

額に大きなこぶのあるじいさまが、山仕事中に夜になったので、山のお堂に泊まることにしました。すると、夜中にたくさんの鬼がやってきて、お堂の周りをグルグル回りながら踊り始めました。初めは怖がっていたじいさまも楽しくなり、お堂から飛び出して鬼たちの踊りの輪に加わりました。喜んだ鬼は、じいさまの額のこぶをとって、返してほしいなら明日の夜も来いと言い残して帰っていきました。この話を聞いた、お隣のこぶじいさまも…。



マックロスキー, ロバート 作

書名	訳者	画家	出版社	時間
かもさんおとおり	渡辺茂男	—	福音館書店	12分
サリーのこけももつみ	石井桃子	—	岩波書店	11分
ハーモニカのめいじんレンティル	まさきるりこ	—	国土社	11分



『かもさんおとおり』

ボストンの川辺で8羽のヒナをかえた、かものマラード夫妻。ヒナたちが少し大きくなると、マラード奥さんを先頭に一列に並んで、公園の池へ引っ越します。ところが、道路にはたくさんの車が走っているので大騒ぎ。おまわりさんが駆け付けて、交通整理をしてくれました。

『サリーのこけももつみ』

サリーは、おかあさんと一緒にジャムにするこけももを摘みに山へやってきました。同じ時、クマの親子も冬眠前にしっかり食べておこうと、山へ来ていました。あちこち歩き回っているうち、サリーと子グマは、それぞれのお母さんを取り違えてしまいます。



『ハーモニカのめいじんレンティル』

レンティルは歌がうまく歌えず、口笛も吹けません。そこでハーモニカを買い、懸命に練習したのでとても上手になりました。ある日、村の有名なカーター大佐のために歓迎会を開くことになりましたが、それがおもしろくないにがむじいさんは、何かを企んでいるようです。さあ、その時、レンティルが立ち上がりました！

松野正子 文

書名	訳者	画家	出版社	時間
ふしぎなたけのこ	—	瀬川康男	福音館書店	8分



『ふしぎなたけのこ』

昔、山奥に住んでいる“たろ”がたけのこを掘りに行きました。暑くなったので上着を脱いで一本のたけのこに引っ掛けると、そのたけのこがぐぐぐと伸び、慌てて飛びついたらろもろとも、天に届くほどどんどん伸びて、いつの間にかとても高く高いところに来てしまいました。たろを探しに来た村人は、この巨大なたけのこを切り倒すことに…。

マリノ, ドロシー 作

書名	訳者	画家	出版社	時間
くんちゃんのだいらよこ	石井桃子	—	岩波書店	7分
くんちゃんにとじ	まさきるりこ	—	ペンギン社	11分
くんちゃんはおおいそがし	まさきるりこ	—	ペンギン社	5分
くんちゃんのはたけしごと	まさきるりこ	—	ペンギン社	6分
くんちゃんのもりのキャンプ	まさきるりこ	—	ペンギン社	10分
くんちゃんのはじめてのがっこう	まさきるりこ	—	ペンギン社	8分
くんちゃんとおふゆのパーティー	新井有子	—	ペンギン社	8分

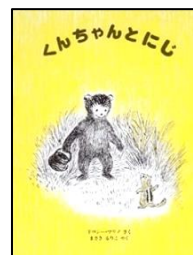


『くんちゃんのだいいりょこう』

もうすぐ冬ごもりの季節。こぐまのくんちゃんは、渡り鳥たちのマネをして南の国へ渡っていくことにしましたが、丘の上まで来てお母さんにさよならのキスをしていないことに気が付きます。そこで丘を駆け下り、お母さんにキスをして、また丘を登りますが、今度は「双眼鏡がいるな」と思いつきました。次々と忘れ物を思いつくくんちゃんは、無事に南の国へ渡ってゆけるのでしょうか？

『くんちゃんとしじ』

虹を見ていたこぐまのくんちゃんに、小鳥が「虹の根元には金の詰まったつぼが埋まっているという話を、聞いたことがあるよ。」と教えてくれました。それを聞いたくんちゃんは、あわてて駆けだしました。虹が消える前に、虹の根元を見つけなくてはいけないからです。



『くんちゃんのはじめてのがっこう』

こぐまのくんちゃんが初めて学校に行く日がきました。最初は嬉しくて、途中出会ったミツバチやコウモリたちに、「ぼく、がっこうへいくんだよ。」と声を掛けながら行きますが、いざ学校に着いてみると、お母さんは帰ってしまうし、字は読めないし、だんだん心細くなります。

マレーク, ベロニカ 作

書名	訳者	画家	出版社	時間
ラチとらいおん	徳永康元	—	福音館書店	9分

『ラチとらいおん』

ラチは世界中で一番弱虫の男の子でした。犬も、暗い部屋も、友だちさえも怖いのです。ある朝、小さいけれど強いらいおんが現れて、「きみもつよくなりたいのなら、ぼくがつよくしてやるよ。」と言いました。



ランド, アン 文

書名	訳者	画家	出版社	時間
川はながれる	掛川恭子	フォードル・ロジャンコフスキー	岩波書店	7分



『川はながれる』

北国の山奥で生まれた小さな川が、少しずつ大きく強くなりながら海を目指して流れ下っていきます。上流ではシカやクマと出会い、下流では大きな町を通り抜けます。

リーフ, マンロー 文

書名	訳者	画家	出版社	時間
はなのすきなうし	光吉夏弥	ロバート・ローソン	岩波書店	12分
おかのうえのギリス	こみやゆう	ロバート・ローソン	岩波書店	14分



『はなのすきなうし』

ふえるじなどは、草の上に座って静かに花の匂いをかいでいるのが好きな牛でした。ある日、うっかりクマンパチの上に座り、おしりを刺されて大暴れ！その姿を闘牛に出す牛を探していた男たちに見られ「猛牛」と誤解されて闘牛場へ連れていかれてしまいます。

『おかのうえのギリス』

昔、スコットランドにギリスという男の子が住んでいました。ギリスは将来、谷間の村と山の村、どちらに住むかを決めなければなりません。試しに大声で牛を呼び集める谷間の牛飼いの暮らしと、息をこらえて動物を待ち伏せする山の狩りの暮らしを送ってみました。その間に、ギリスの肺はとてつもなく大きく強くなり、その肺のおかげで思わぬ転機が訪れます。

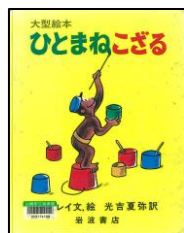


レイ, H(ハンス)・A(アウグスト) 作

書名	訳者	画家	出版社	時間
ひとまねこざるときいろいぼうし	光吉夏弥	—	岩波書店	10分
ひとまねこざる	光吉夏弥	—	岩波書店	13分
じてんしゃにのるひとまねこざる	光吉夏弥	—	岩波書店	14分
ろけつとこざる	光吉夏弥	—	岩波書店	15分

『ひとまねこざるときいろいぼうし』

おさるのじょーじは、とても知りたがりやで人まねが大好きでした。ある日、アフリカから連れてきてくれた黄色い帽子のおじさんが電話をかけているのを見て、自分もかけてみることに…。ところが、つながったのは消防署でした！



『ひとまねこざる』

じょーじはかわいいこざるでしたが、とても知りたがりやでした。動物園を逃げ出したじょーじは、ビルの窓ふきに雇われました。はじめは部屋の中など気にしなかったのですが、せっせと働くペンキ屋さんとうっとり見とれました。窓ふきよりずっとおもしろそうです。



『じてんしゃにのるひとまねこざる』

おさるのじょーじは、黄色い帽子のおじさんから新しい自転車をもらって大喜びです。得意の自転車の曲乗りをサーカスで見せることになったのですが…。



『ろけつとこざる』

色々ないたずらをしたあげく、博物館へ逃げ込んだおさるのじょーじは、館長さんに頼まれて実験用の宇宙ロケットに乗り込みます。



レイ, マーガレット(マーグレット) 文

書名	訳者	画家	出版社	時間
ひとまねこざるびょういんへいく	光吉夏弥	H・A・レイ	岩波書店	17分
たこをあげるひとまねこざる	光吉夏弥	H・A・レイ	岩波書店	19分
どうながのプレッツェル	渡辺茂男	H・A・レイ	福音館書店	6分

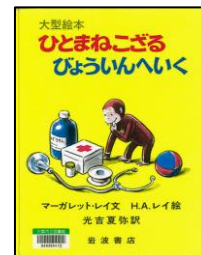
『ひとまねこざるびょういんへいく』

はめ絵のこまをキャンディーと間違えて飲み込んでしまったおさるのじょーじは、お腹が痛くなり、子ども病院に入院します。手術をして元気になったじょーじは子どもたちの人気者になりますが、隣のベッドのべっちは、にこりともしません。



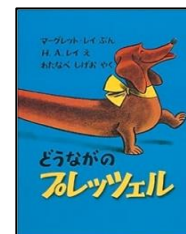
『たこをあげるひとまねこざる』

おさるのじょーじは、魚釣りに失敗してびしょぬれになっていました。そこへビルがやってきて、たこあげを見せてくれることになりました。その日はとても風が強かったので、じょーじは糸を持たせてもらえませんでした。ところが、ビルが自転車をとりに行ったすきに…。



『どうながのプレッツェル』

世界一胴長のダックスフントのプレッツェルは、ドッグショーで優勝して大得意。けれども、大好きな小さなダックスフントのグレタだけは「胴長なんて大嫌い」と知らん顔です。そこでグレタの気を引こうと…。



ロード, ジョン・ヴァーノン 作

書名	訳者	画家	出版社	時間
ジャイアント・ジャム・サンド	安西徹雄	—	アリス館	6分



『ジャイアント・ジャム・サンド』

むんむんむしむし暑い夏、村に飛んできた400万匹の蜂の大群。困った村の人たちは、蜂退治の愉快的な作戦を立てました。“ジャイアント・ジャム・サンド”を作って蜂をおびき寄せるのです！

渡辺茂男 文

書名	訳者	画家	出版社	時間
しょうぼうじどうしゃじぶた	—	山本忠敬	福音館書店	8分



『しょうぼうじどうしゃじぶた』

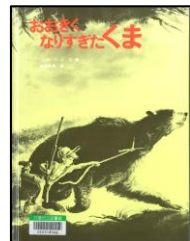
ある町の消防署に、古いジープを改良した小さな消防自動車のじぶたがいました。じぶたは、いつも火事の現場で大活躍するはしご車ののっぽくんや高圧車のぱんぷくん、救急車のいちもくさんにパカにされ、ちっぽけな自分を悲しく思っていました。ところが、隣村の山火事が発生したとき、他の車では通れない山道を走って火事を消したのは、他でもないじぶたでした！

ワード, リンド 作

書名	訳者	画家	出版社	時間
おおきくなりすぎたくま	渡辺茂男	—	ほるぷ出版	14分

『おおきくなりすぎたくま』

少年ジョニーは、森で出会った子ぐまを家に連れて帰りました。子ぐまは牛乳もリンゴもパンケーキも大好きでしたが、次第に台所や畑を荒らすようになり、みるみる育って大変大きくなりました。村の厄介者になってしまったのです。そこで、ジョニーはくまを連れて遠くまで出かけていきました。



長編だけのおすすめの絵本

読み聞かせると20分以上かかりますが、おすすめの本を集めました。

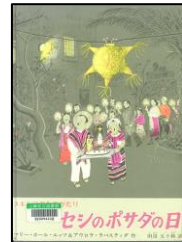
ゆったりと時間がとれる時はもちろん、2～3回にわたっての読み聞かせにも挑戦してみてください。何回かに分けるときは、あらかじめどこまで読むか、切りのいいところを決めておく必要があります。

エッツ、マリー・ホール 作

書名	訳者	画家	出版社	時間
セシのポサダの日	たなべいすず	アウロラ・ラバスティダ[共]	富山房	27分

『セシのポサダの日』

メキシコで行われるポサダとは、クリスマス前の9日間、毎日行われる特別なパーティーのことです。ポサダでは、ピニャタという飾りの中に、たくさんの果物やお菓子を入れて庭につるします。初めて自分のポサダをしてもらえたことになった小さな女の子のセシは、ピニャタを買ってもらえるかしら？ 買ってもらえたらどんなのにしようかと、ドキドキしています。



カリジェ、アロイス 作

書名	訳者	画家	出版社	時間
マウルスと三びきのヤギ	大塚勇三	—	岩波書店	22分



『マウルスと三びきのヤギ』

ヤギ飼いの少年マウルスは、毎朝、村中のヤギを連れて山の牧場に行きます。ある日、マウルスのお気に入りの3匹が迷子になってしまいました。牛飼いのトマシュさんが森で聞いたという鈴の音を頼りに、暗い森を越え、谷川を飛び越えて、マウルスは懸命にヤギたちを探します。

グリム 文

書名	訳者	画家	出版社	時間
ロバのおうじ	M・ジーン・クレイグ再話 もきかずこ 訳	バーバラ・クーニー	ほるぷ出版	25分

『ロバのおうじ』

ある国の王さまとお妃は魔法使いに子どもを授けてもらいましたが、約束を守らなかったため、生まれてきた王子はロバの姿をしていました。誰からも愛されないロバの王子は、あてのない旅に出かけ、やがて立派なお城にたどり着きます。そこで優しいお姫様やお城の人たちと暮らすこととなりますが...



ジェイクス、フェイス 作

書名	訳者	画家	出版社	時間
ティリーのねがい	小林いづみ	—	こぐま社	20分
ティリーのクリスマス	小林いづみ	—	こぐま社	18分



『ティリーのねがい』

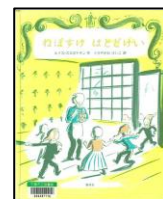
人形の家に住んでいるメイドのティリーは、自分の家を欲しがっていました。「自由に暮らせて、何でも自分自身で決められる場所を見つけなくちゃ。」そこで、人形の家を出て、途中で出会ったクマのぬいぐるみのエドワードの力を借りながら、庭の温室の中に自分の家を作り始めます。

スロポドキン, ルイス 作

書名	訳者	画家	出版社	時間
ねぼすけはとどけい	厨川圭子	—	偕成社	30分
スーザンのかくれんぼ	山主敏子	—	偕成社	20分

『ねぼすけはとどけい』

小さな時計屋の壁には、はとどけいがずらりと並んでいました。一時間ごとにはとが一斉に飛び出し、「ポッポー」と鳴きますが、一羽のはとだけは、いつも少し遅れて出てきました。村の子どもたちは、その様子を見るのが楽しみでした。そんなある日、お店のはとどけいを全部買いたいという人が現れました。



『スーザンのかくれんぼ』

スーザンはクモが大嫌いです。ところが兄さんたちは、飼っているクモをスーザンに見せると言うのです。そこで、スーザンは隠れ場所を探し、大人たちも協力してくれますが、いつも誰かに見つかってしまいます。

ドクター＝スース 作

書名	訳者	画家	出版社	時間
ふしぎな500のぼうし	渡辺茂男	—	偕成社	40分

『ふしぎな500のぼうし』

バーソロミューは、昔から家にある古い帽子が好きでかぶっていました。ある日、王様の行列に出会い帽子をとりますが、不思議なことに頭の上にはまだ一つ残っています。それもあわてて取りますが、まだ残り…。とうとう王様の怒りがかかってお城に連れていかれます。



ヘイワード, デュ・ボウズ 文

書名	訳者	画家	出版社	時間
ふわふわしっぽと小さな金のくつ	羽島葉子	マージョリー・フラック	パルコ出版	20分

マックロスキー, ロバート 作

書名	訳者	画家	出版社	時間
海へのあさ	石井桃子	—	岩波書店	24分
沖釣り漁師のバート・ダウじいさん	渡辺茂男	—	童話館出版	30分
すばらしいとき	渡辺茂男	—	福音館書店	24分



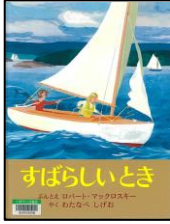
『海へのあさ』

ある朝、歯が1本ぐらぐらしていることに気付いたサリーは、お母さんに「抜けた歯を枕の下に入れてお願いをすれば、叶うことになっているのよ。でも、その願いは内緒なのよ。」と教えてもらいます。それから浜辺でハマグリ拾いをしているお父さんに知らせに行きましたが、しゃべっているうちに歯が抜けて、砂に混ざってなくなってしまいました…。

『沖釣り漁師のバート・ダウじいさん』

バート・ダウじいさんが自分の古い船に乗り、釣り糸をたらしているとすごい引きがあり、船が棒立ちになりました。釣り針がクジラの尻尾に引っかかっていたのです。針を外すことに夢中になっているうちに嵐が近付いていたので、バート・ダウじいさんはクジラのお腹の中に避難することにしました。





『すばらしいとき』

アメリカのメイン州の小さな島で過ごす一家。静かにゆっくりと、しかし一斉にバイオリンの柄のような首をもたげるシダの芽や、木が倒れるほどの嵐の夜など、美しい自然の中で過ごす“すばらしいとき”を父親が2人の娘に語っています。

ランサム, アーサー 文

書名	訳者	画家	出版社	時間
空とぶ船と世界一のばか	神宮輝夫	ユリー・シュルヴィッツ	岩波書店	30分

『空とぶ船と世界一のばか』

昔、ある村に世界一ばかだと言われている末息子がいました。王さまが「空とぶ船を持ってきた者には、お姫様と結婚させる。」というおふれを出したのを知って、ばか息子は空とぶ船を手に入れ、宮殿へとむかいます。道々、「きき耳」や「はや足」など特技を持った七人の男が仲間に加わりました。ところが、王さまは...



おすすめ科学絵本 & 時間調整におすすめの短い絵本

読み聞かせのプログラムに季節感を出したいときに、科学絵本は効果的です。
また、時間調整やおまけの一冊として使いやすい概ね5分以内で読める絵本を集めました。2～3冊準備しておく、ちょっと時間が余ったときなどに便利です。

伊地知英信 文

書名	訳者	画家	出版社	時間
しもばしら	—	細島雅代	岩崎書店	5分

『しもばしら』

しもばしらって何だろう？ どうやってできるの？ どこにできるの？ 日なたと日陰、しもばしらができるのはどっちだと思いますか？ 寒い朝、しもばしらを見つけたら、まじまじと見つめたくなる一冊です。少し遠目がききにくい。文章で補っているが、少人数向き。



今森光彦 作

書名	訳者	画家	出版社	時間
みずたまレンズ	—	—	福音館書店	3分



『みずたまレンズ』

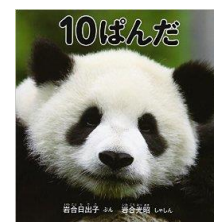
雨上がり、小さな虫になったつもりで、植物についた雫をのそいでみると、ものが大きく見えたり、逆さまに見えたり。“みずたまレンズ”を通して見ると、不思議で美しい世界が広がります。細かな写真もあるので、少人数におすすめです。

岩合日出子 文

書名	訳者	写真	出版社	時間
10ぱんだ	—	岩合光昭	福音館書店	3分
10ねこ	—	岩合光昭	福音館書店	3分

『10ぱんだ』

「らくらくきのぼり 1ぱんだ」リズム感のある文章と、かわいいパンダの写真が魅力的な絵本です。子どもたちは写真のパンダを数えながら聞いているので、数が増えてきたら、ゆっくりページをめくるように気を付けましょう。同シリーズの『10ねこ』も同様に。



甲斐信枝 作

書名	訳者	画家	出版社	時間
つくし	—	—	福音館書店	5分
ひがんばんな	—	—	福音館書店	5分
ざっそう	—	—	福音館書店	4分

『ひがんばんな』

秋になると、あぜ道を真っ赤に埋め尽くすひがんばんな。葉っぱを出さずに、いきなり花を咲かせる不思議な生態と、「きつねのかんざし」「はなちょうちん」など、驚くほどたくさんのお名前が紹介されています。





『ざっそう』
春に花を咲かせるハハコグサやシロツメクサは、他の草に負けないように、仲間同士かたまりあって葉を広げ、茎を伸ばします。上から占領していくカラスノエンドウ。人に踏まれても平気なおオバコ。何気なく見過ごしている“ざっそう”は、生き抜く力にあふれています。

片平孝 作

書名	訳者	写真	出版社	時間
おかしなゆきふしぎなおおり	—	—	ポプラ社	5分



『おかしなゆきふしぎなおおり』
ゆっくり積もった雪はぺっちゃんこのパンケーキ型に、激しく降った雪はコック帽型に高く積もるそうです。雪や氷の不思議で美しい姿をとらえた写真が楽しめます。

桑原隆一 文

書名	訳者	写真	出版社	時間
アリからみると	—	栗林慧	福音館書店	2分

『アリからみると』
特殊レンズによって、小さな虫たちが大きく写されています。バッタがこんなに大きくなるなんて！ 驚異の世界が広がります。



ケペシュ, ジュリエット 作

書名	訳者	画家	出版社	時間
ゆかいなかえる	石井桃子	—	福音館書店	3分



『ゆかいなかえる』
ゼリーのようなカエルの卵。魚の襲撃から逃れた4つの卵は、オタマジャクシからカエルになり、もぐったり、泳いだり、遊んだり、夏中たのしく暮らします。弾むような短い文章と、カエルの表情がとてもユーモラス。

佐藤雅彦+ユーフラテス 作

書名	訳者	画家	出版社	時間
中をそうぞうしてみよ	—	—	福音館書店	3分
このあいだになにかあった？	—	—	福音館書店	3分
なにかがいる	—	—	福音館書店	2分

『中をそうぞうしてみよ』
一脚の椅子には何本の釘が使われている？ボールペンの先ってどうなっている？身近な物をX線写真を使って撮影して見ると、いつもと違う物や見えなかった物が見えてきます。



『なにかがいる』
何もいないようだけど、よく見ると...、何かいる！ 枯草の中のバッタ、草むらのベンガルトラ、感覚を研ぎ澄ませて、その“なにか”を見つけてみよう。

『このあいだになにがあった？』

むくむくの羊と、ほっしりした羊…。このあいだになにがあった？正解は羊の毛を刈った。では、湯船に浮かんだおもちゃと、洗い場に転がったおもちゃのあいだには？好奇心をくすぐる一冊です！



サーラー, ライク 文

書名	訳者	画家	出版社	時間
わゴムはどのくらい伸びるのかしら	きしだえりこ	ジェリー・ジョイナー	ほるぷ出版	3分

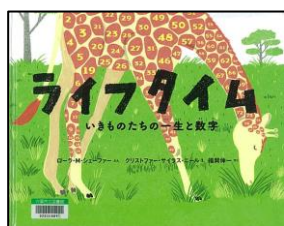
『わゴムはどのくらい伸びるのかしら？』

わゴムがどのくらい伸びるかを知りたくなった坊やは、ベッドの枠にわゴムを引っ掛け、もう一方を手を持って外に出ました。自転車に乗って、バスに乗って、飛行機に乗って…。空想が楽しい一冊。



シェーファー, ローラ・M 文

書名	訳者	画家	出版社	時間
ライフタイム ～いきものたちの一生と数字	福岡伸一	クリストファー・サイラス・ニール	ポプラ社	3分



『ライフタイム』

「一生の間にキツツキが木にあける穴の数は30」「一生の間にキリンの網目模様は200できる」など、動物の一生と数字に関する科学絵本。低学年には普通に読み聞かせをし、高学年には巻末の数の根拠の解説を1～2つ紹介しても良い。(上記の時間は本文だけを読み聞かせた所要時間です。解説を一つ入れると+2分ぐらい。)

シャーリップ(チャーリップ), レミー 作

書名	訳者	画家	出版社	時間
ママ、ママ、おなかがいたいよ	坪井郁美	パートン・サブリー[共]	福音館書店	4分
よかったねネッドくん	八木田宜子	—	偕成社	3分

『よかったねネッドくん』

“よかった”と“でも、たいへん”が繰り返し、スピーディーにお話が進む、学年を問わず人気の一冊です。おまけの一冊として読んでもいいですが、読み聞かせの最初、子どもが落ち着かない時に、この本を読んで気持ちを引き付けるのもいいでしょう。



『ママ、ママ、おなかがいたいよ』

お腹が大きく膨らんだ男の子。大急ぎで病院へ運んで診てみると、お腹から出てきたのはリンゴ、ケーキ、山盛りスパゲティ。お茶セットにぼうしにウサギ、ブーツ！ のこぎり！！ などなど…。影絵のようなシルエットで描かれた奇想天外な一冊。



谷川俊太郎 文

書名	訳者	画家	出版社	時間
これはおひさま	—	大橋歩	復刊ドットコム	2分
めのまどあけろ	—	長新太	福音館書店	2分
ことばあそびうた	—	瀬川康男	福音館書店	—
ことばあそびうた・また	—	瀬川康男	福音館書店	—
わたし	—	長新太	福音館書店	3分
こっぷ	—	今村昌昭	福音館書店	3分



『これはおひさま』

「これはおひさま」「これはおひさまのしたのむぎばたけ」「これはおひさまのしたのむぎばたけでとれたこむぎ」ページを繰るごとに、言葉がどんどん積み重なって



『ことばあそびうた』

「かっぱかっぱらった／かっぱらっぱかっぱらった／とつてちつてた」楽しい言葉遊びの詩がたくさん紹介されています。お気に入りの詩を、1フレーズずつ、子どもたちにも声に出してもらって、一緒に楽しんでみてください。

『わたし』

わたしは山口みちこ、5才。お兄ちゃんから見ると“妹”。でも、犬から見ると“人間”。わたしはひとりなのに、呼び名はいっぱい。社会関係を楽しく描きます。



長新太 文

書名	訳者	写真	出版社	時間
ふゆめがっしょうだん	—	富成忠夫〔共〕	福音館書店	3分

『ふゆめがっしょうだん』

よく見ると、何かの顔に見える冬芽の写真絵本。ユーモラスな表情を楽しみましょう。



中村牧江〔共〕作

書名	訳者	画家	出版社	時間
ふしぎなナイフ	—	福田隆義	福音館書店	2分



『ふしぎなナイフ』

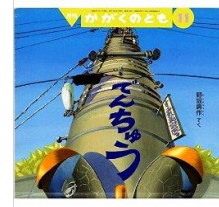
なんのへんてつも無い1本のナイフ。ページをめくっていくと、ナイフがまがる。おれる。とける。ちらばる。のびてはちぢんで、どんどんふくらむ。絵本に描かれた不思議な世界。

野坂勇作 作

書名	訳者	画家	出版社	時間
でんちゅう	—	—	福音館書店	3分

『でんちゅう』

普段は目に留めない電柱ですが、足場ボルトにカーブミラー、変圧器など、実は様々なものが付いています。電話線と電線、区別できますか？



長谷川 摂子 作

書名	訳者	画家	出版社	時間
きよだいなきよだいな	—	降矢なな	福音館書店	3分



『きよだいなきよだいな』

「あつたとさあつたとさきよだいなピアノがあたとさ」巨大なピアノの上で鬼ごっこ、巨大な石けんでつるつるすべりっこ、巨大な扇風機で空を飛び、100人の子どもたちが思いっきり遊びます。リズムカルな言葉が魅力的です。

平山和子 作

書名	訳者	画家	出版社	時間
たんぽぽ	—	—	福音館書店	5分

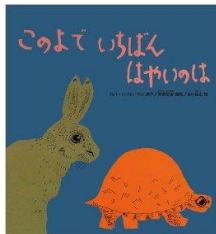
『たんぽぽ』

冬は葉を寝かせていたタンポポは、春になると新しい葉を出して立ち上がり、花を咲かせます。身近な花なのに、実はあまり知らないタンポポの秘密を紹介します。



フローマン, ロバート 文

書名	訳者	画家	出版社	時間
このよでいちばんはやいのは	天野祐吉(案)	あべ弘士	福音館書店	6分

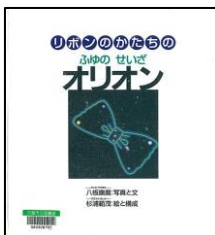


『このよでいちばんはやいのは』

カメより速いウサギ、ウサギより速いツバメ。チーターより速い新幹線…。ジェット機より速いのは音。音より速いのは地球の自転。それより速いのは人工衛星。人工衛星より速いのは、地球が太陽の周りをまわる速さ(公転)。では、それより速いのは…？

矢板康磨 文

書名	訳者	画家	出版社	時間
リボンのかたちのふゆのせいざ オリオン	—	杉浦範茂	福音館書店	3分



『リボンのかたちのふゆのせいざオリオン』

夜空に輝く無数の星々。季節ごとに一つの星座を知っているだけでも、星空はとても身近な存在になります。冬ならばオリオン座。オリオン座はその特徴的な姿から、小さな子どもでも見つけやすい星座の一つです。3つの星を中心にした四角い星座。リボンの形を想像すれば、一層探しやすいかもしれません。この本で、星座に興味を持つ子が増えますように…。

藪内正幸 作

書名	訳者	画家	出版社	時間
なにのあしあとかな	—	—	福音館書店	2分

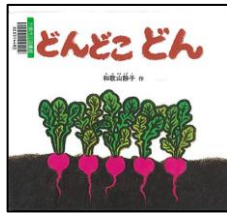
『なにのあしあとかな』

「なにのあしあとかな？」とクイズ形式で楽しんで。ウサギや蹄鉄をつけていない馬など、大人でも意外に難しい。犬と猫の違い、わかりますか？（爪を出しっぱなしにしているのは犬。猫は爪をしまっておきます。見比べても楽しい。）2歳～4歳向けの幼児絵本となっていますが、高学年でも十分楽しめます。



和歌山静子 作

書名	訳者	画家	出版社	時間
どんどこどん	—	—	福音館書店	2分



『どんどこどん』

ページを開くと、野菜の葉(土の上)。「つちのなかかかどんどこどんどこ」と言いながらページをめくると、土の下にある野菜の様子が描かれます。子どもたちにも一緒に「どんどこどんどこ」と掛け声をかけてもらい、葉の絵を見せながら「この野菜、な～んだ？」とクイズ形式で楽しんで。にんじん、じゃがいも、里芋、ゴボウなど、馴染みのある野菜が次々現れますが、葉っぱとなると意外に難しい…。盛り上がる一冊です。